

## 後継者のために第2農場を新設しレタス(水耕)とホウレンソウ(土耕)の複合栽培！

今号は、後継者のために第2農場を新設されレタスとホウレンソウ栽培の複合経営に取り組まれている渡辺農園(渡辺猛代表)の事例紹介です。

渡辺猛さんは、すでに愛知県西加茂郡藤岡町に4500坪の施設でネギ、みつばの水耕栽培を展開されている水耕栽培のベテラン農園ですが、本年愛知県南設楽郡作手村に840坪鉄骨ハウス、730坪のパイプハウスを新設され、前者をレタス(水耕)後者をホウレンソウ(土耕)として活用されています。新設の動機は、既施設を長男さん、新設農場を次男

の渡辺宏治さん(27才)に任せる体制作りとのこと。作手村は愛知県東部、岡崎、豊橋から約30km北に入った高原地帯です。施設の場所も高度500mということで、南部地域と比較して冷涼な気候で、写真のように隣接する巴川では蛍を見ることができるといふ素晴らしい環境です。

今年の7月から栽培を開始されていますが、原水にあわせた栽培管理点を見出すまで、大部苦労されたとのことですが、ようやくそれも落ち着き現在はレタスがすくすくと育っているレタス畑となっています。宏治さんは近くに住居を移し毎日朝早くから、

遅くまで頑張っておられます。鉄骨ハウスに隣接したパイプハウスではホウレンソウを栽培され、地域の気候を生かした複合経営に取り組まれているところも見習うべきポイントだと感心させられます。今年はレタス・ホウレンソウとも値がいいので自分は運があるのかなと、笑っておられました。

レタスは従来からの契約栽培継続で出荷されており、順調なすべり出しでほっとされている所です。悩みは人手確保がとのことですが、今後の発展をお祈りしています。(川村庄一)

